

中川常務 開会挨拶（2020. 2. 13）

- 本日はご多用な中、お集まりいただき、本当にありがとうございます。関西文化学術研究都市推進機構の常務理事の中川でございます。新型肺炎の報道もされる中、各方面から非常に多くのご参加をいただき、誠にありがとうございます。改めて感謝を申し上げます。
- また、平素は、“けいはんな学研都市” また、私ども推進機構の方に御理解をいただき、御協力いただきますこと、感謝申し上げます。
- けいはんな学研都市も法律が施行されて30数年経っておりますけれども、東の筑波研究学園都市、西はけいはんな学研都市ということで、科学技術基本計画の中でも大きく位置付けられているところです。この30年間、都市づくりに邁進して参りまして、いよいよ、いろんな研究機関様、企業様が連帯をして、新しい価値創造に向けてイノベーションを起こしていく仕組みを、我々推進機構も取組んでいるところです。
- 現状といたしましては、施設数も150を数えました。人口も25万人ということで、就業者数も1万人、そのうち3分の1くらいが研究者の方ということで、大変活況を呈してきているのではないかと思います。イノベーションの創出にあたりましては、皆さんご存知のように、スタートアップエコシステムの指定に向けて、財界をあげて、行政と共に取りに行くということで、けいはんなといたしまして、その一翼を担っていきたくと考えています。また2025年の大阪関西万博ですけれども、これも誘致の段階からけいはんなも色々と協力させていただいていました。いよいよ実現ということで、あと5年でございますが、けいはんなといたしましても、研究開発の成果を提案していければと、そして貢献していければと考えていることです。今後も世界の先端的な研究シーズや技術をお持ちの研究機関様や企業様、また、行政、住民の皆さまの知恵や知識の融合を進めまして、未来への新たな価値を創造していく、また世界に貢献していくサイエンスシティとして発展していくように私どもも取組んでいるところです。
- 筑波に比べて、けいはんなの特色は、産官学だけではなく、住民さんで実証実験にご協力いただける方がたくさんおられ、過去からの実績もございます。産官学プラス住民さんにも連携していただき、進めていくことのできる研究都市であることが特徴であると思っています。
- 本日は先端シーズフォーラムということですがございますが、年に2回ほど開催しております。今回は、「熱」エネルギー再発見 ～墓場をゆりかごに変える先端技術～」と題し、エネルギー利用に際して、空間に放出される未利用な“熱”について、少し刺激的な名前を付けていますが、熱は損失として生まれ、利用がなかなか難しいということでございますので、このような表現もされるとのことで



すが、熱の利用がうまく進めば、“熱はエネルギーの墓場”と言われる状況から、新たなエネルギーの源となる“ゆりかご”になり、国連採択のSDGs「9. 産業と技術革新の基盤をつくろう」、「7. エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」を実現する具体策となると思います。

- 神戸大学 鈴木教授からは、熱利用の需要と供給に関する“時間・温度・空間のギャップ”を解消する技術である「硬殻マイクロカプセル化蓄熱材」について、その特性を活かした潜熱蓄熱・化学蓄熱・潜熱輸送における利用を通じた次世代低炭素社会の実現についてご紹介させていただきます。
- また、奈良先端大の中村教授からは、IoTの進展に伴うデバイス電源として、身近な未利用エネルギーを電気に変換する“エナジーハーベスター”の実現に向け、その有用技術の一つである「有機系材料によるフレキシブル熱電変換素子」について、その新奇性の高い熱電材料と素子化に向けた研究状況をご紹介いただきます。
- それぞれの先端研究の一端をお聞かせいただけるとのことですので、私も勉強させていただきたいと思います。
- また、ご講演後のディスカッションでは、限られた時間ですが、会場からの質問にお答えいただくとともに、各先生方とのご意見の交換を通じて、会場の参加者の皆さまにとって、示唆に富む、貴重な時間となればと願っております。講師の皆さまには、どうぞよろしくお願い申し上げます。
- 本日もご参加の皆さまが、このフォーラムにご参加され、皆さまのお仕事において、何か新たな取組みのヒントを得る機会となることを念じております。
- また、事前にお申込みの方には、講演終了後に、この会場の隣室を会場に、小さな「交流会」もごございます。今回のフォーラムを通じて、新たな“ご縁”が繋がりと、将来的に新産業創出につながる機会となりましたら、主催者として幸いです。
- 最後になりますが、今回のフォーラムが、今後の関西をはじめ、日本全国、そして世界の発展に向けた契機の一つになること、また、皆さまのご健勝とますますのご発展を願ひまして、私のご挨拶とさせていただきます。